

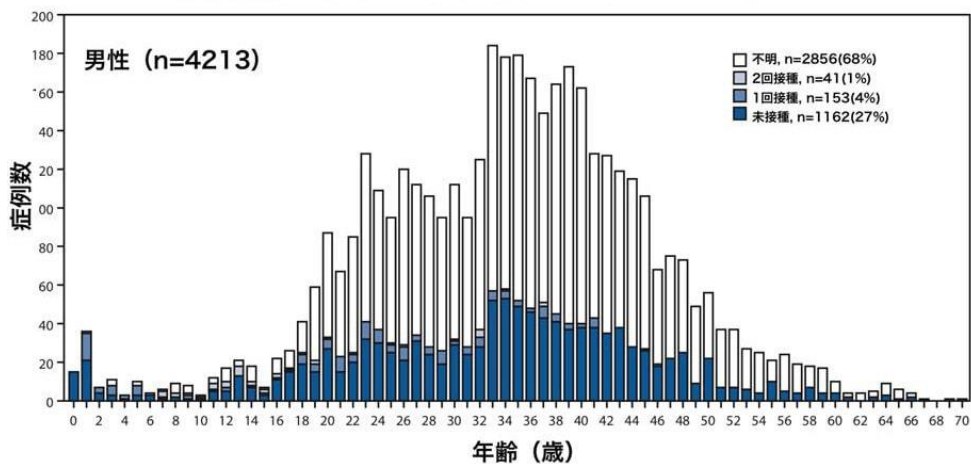
風疹の流行が続いています

国立感染症研究所は10月23日に14日までの1週間に新たに141人の風疹患者が報告されたと発表しました。6週連続で150人前後の増加が続いており、今年の累積患者数は1289人となり、昨年1年間の患者数93人の1.3倍を超えました。また首都圏で急増していた風疹は、全地方（北海道、東北、中部、近畿、中国、四国、九州）に感染が拡大しつつあるとの見解を示しました。27日には熊本市でも50代の男性の発症が発表されました。風疹の流行が止まらない状況です。その大きな要因として予防接種行政の変遷により34歳以上の男性が風疹ワクチンを受けていないことが挙げられます。

年齢によって異なる風疹の予防接種状況		
	男性	女性
0歳～23歳 1990年4月2日以降生まれ	2回個別接種 ※13～23歳は2回目接種率が低い	
23歳～25歳 1967年10月2日～90年4月1日生まれ	個別接種	
25歳～34歳 1979年4月2日～87年10月1日生まれ	中学生時に医療機関で個別接種 ※接種率低い。幼児期に選択接種している場合あり	
34歳～51歳 1962年4月2日～79年4月1日生まれ	接種なし	中学校で集団接種
51歳～ 1962年4月1日以前生まれ	接種なし	

Yahoo news :<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20130426-00010002-wordleaf-soci>
より転載

図1 2013年の日本での風疹流行時における男性症例数と風疹ワクチン接種



(文献1より引用)

文献1) より転載

風疹は2013年にも大流行しました。関東を中心に1万7千人を超える感染者が出たことは、記憶に新しいことと思います¹⁾。このときは45例もの先天性風疹症候群が報告されました。前回の流行では中年男性が77%を占めたわけですが、今回の流行でも30~40代の男性に多いことがわかっています。文献1) より転載した図1を見てみるとワクチン1回接種では風疹に罹患していることがわかります。しかし、大半がワクチン歴不明です。

ワクチン歴不明の人、もしくはワクチンを接種しない人は風疹罹患歴のあるかと思いますが、中学生を対象に風疹に罹ったことがあるという人達に風疹抗体を測定した研究があります²⁾。それによると調査した310人のうち、「風疹にかかったことがある」と答えた42人中、24人(57%)に風疹抗体がなかったことがわかりました。論文は「個人の認識する(風疹の)既往歴は不確実であることが明らかとなった」とまとめています。つまり約半数は医者で誤診したということです。風疹の診断は必ずしも血清診断するわけではなく、臨床診断で済ませることも多く、その際は誤診する可能性は強いと思われます。特に小児の場合、ごく軽症で終始することが多く、また採血も容易ではないため熟練した医師でも診断に苦慮します。しかも採血検査でも2回の採血を要することもあり簡単なことではありません³⁾。風疹に罹った既往というのはこれほどあてにならないのです。

厚生労働省は、風疹の免疫の有無を調べる抗体検査について、30歳以上60歳未満の男性を対象に、来年度、検査費用を全額公費で負担する方針を決めました。現在は妊娠を望む女性やそのパートナーの抗体検査が無料ですが、今回の流行を受け、対象を働き盛りの成人男性に拡大する方針です(2018年10月1日 読売新聞)。

抗体保有者にワクチンを接種しても害はありませんがワクチンが不足しつつあるので本来に抗体がない人に接種してもらいたいです。

菊池中央病院 中川 義久

平成30年10月30日

参考文献

1) 今回もワクチン未接種者の30~40代が罹患

http://www.carennet.com/series/kutsuna/cg001313_035.html?utm_source=m15&utm_medium=email&utm_campaign=2018091703

2) 「風疹既往歴と風疹抗体価—中学校における5年間の血清疫学」兵庫県立衛生研究所年報. 1999; 34; 133-136.

3) 松平 隆光: 風疹. 日本医師会雑誌 2012; supp 141; 173-174.